第４講　漢文対策　その２

第４問

次の文章は、唐の杜牧（とぼく）（八〇三―八五二）の【詩】「華清宮（かせいきゅう）」とそれに関連する【資料】Ⅰ～Ⅳである。これを読んで、後の問い（問１～６）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。（配点　50）

【詩】

華（注1）清宮

長安ヨリ回望スレバ繡（しう）（注2）成スレ堆ヲ

山頂ノ千門次（注3）第ニ開ク

一騎紅（こう）（注4）塵（ぢん）妃（注5）子笑フ

無三シ人ノ知ル二是（こ）レ荔（れい）（注6）枝ノ来タルヲ一

メモ欄

【資料】

Ⅰ　『天(注7)宝遺事』云、「貴妃嗜二茘枝一。当時涪(注8)州致二貢以レ馬遞(注9)一、馳載七日七夜至レ京。人馬多斃二於路一、(ア)百姓苦レ之。」

Ⅱ　『畳(注10)山詩話』云、「明(注11)皇致二遠物一以悦二婦人一。窮人力絶人命、有所不顧。」

Ⅲ　『遯(注12)斎閑覧』云、「杜牧華清宮詩(イ)尤膾二炙人口一。拠二唐(注13)紀一、明皇以二十月一幸二驪山一、至レ春即還レ宮。是未三嘗六月在二驪山一也。然茘枝盛暑方熟。」

（【詩】と【資料】Ⅰ～Ⅲは蔡正孫『詩林広記』による）

メモ欄

Ⅳ

『甘沢謡』(注14)ニ曰ハク、「天宝十四年六月一日、貴妃誕(たん)(注15)辰(しん)、駕(が)(注16)幸ス二驪山一ニ。命ジテ二小(注17)部音声一ニ、奏シ二楽ヲ長生(注18)殿一ニ、進メシム二新曲一ヲ、未ダレ有ラレ名。会(たまたま)南(注19)海献ジ二茘枝一ヲ、(ウ)因名ヅク二茘枝(れいし)香(かうト)一。」

（【資料】Ⅳは程大昌(ていだいしょう)『考古編』による）

（注）

1 華清宮――唐の都長安の郊外にある、驪山(りざん)の温泉地に造営された離宮。

2 繡成レ堆――綾絹(あやぎぬ)を重ねたような驪山の山容の美しさをいう。

3 次第――次々と。

4 紅塵――砂煙。

5 妃子――楊貴妃(ようきひ)のこと。唐の皇帝玄宗(げんそう)（六八五―七六二）の妃(きさき)。

6 茘枝――果物のライチ。中国南方の特産物。

7 『天宝遺事』――唐の天宝年間（七四二―七五六）の逸話を集めた書。王仁裕(おうじんゆう)著。

8 涪州――中国南方の地名。

9 馬逓――早馬の中継による緊急輸送。公文書を運ぶのが本来の目的。

10 『畳山詩話』――詩の解説・批評や詩人の逸話を載せた書。謝枋得(しゃぼうとく)著。

11 明皇――玄宗を指す。

12 『遯斎閑覧』――学問的なテーマで書かれた随筆集。陳正敏(ちんせいびん)著。

13 唐紀――唐の時代についての歴史記録。

14 『甘沢謡』――唐の逸話を集めた書。袁郊(えんこう)著。

15 誕辰――誕生日。

メモ欄

16 駕――皇帝の乗り物。
17 小部音声――唐の宮廷の少年歌舞音楽隊。
18 長生殿――華清宮の建物の一つ。
19 南海――南海郡のこと。中国南方の地名。

メモ欄

問1　この【**詩**】の形式と押韻の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 31 。

① 形式は七言律詩であり、「開」「来」で押韻している。
② 形式は七言律詩であり、「堆」「開」「来」で押韻している。
③ 形式は七言律詩であり、「堆」「開」「笑」「来」で押韻している。
④ 形式は七言絶句であり、「開」「来」で押韻している。
⑤ 形式は七言絶句であり、「堆」「開」「来」で押韻している。
⑥ 形式は七言絶句であり、「堆」「開」「笑」「来」で押韻している。

メモ欄

問２　波線部(ア)「百姓」・(イ)「膾ニ炙 人 口ニ」・(ウ)「因」のここでの意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 32 ～ 34 。

(ア)「百姓」 32
① 民衆
② 旅人
③ 皇帝
④ 商人
⑤ 罪人

(イ)「膾ニ炙 人 口ニ」 33
① 異口同音に批判する
② 一言では到底表せない
③ 詳しく分析されている
④ 広く知れわたっている
⑤ 人々が苦痛に感じている

(ウ)「因」 34
① そのために
② やむをえず
③ ことさら
④ とりあえず
⑤ またもや

メモ欄

問３　傍線部「窮人力絶人命、有所不顧。」について、返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［35］。

① 窮㆔人力絶㆓人命㆒、有㆓所不㆑顧。
人力の人命を絶たんとするを窮めて、所として顧みざる有りと。

② 窮㆓人力絶人命㆒、有所㆑不㆑顧。
人の力(つと)めて絶人の命を窮むるは、有れども顧みざる所なりと。

③ 窮人力絶人命、有所不㆑顧。
窮人の力は絶人の命にして、有る所顧みざるのみと。

④ 窮㆓人力㆒絶㆓人命㆒、有㆑所㆑不㆑顧。
人力を窮め人命を絶つも、顧みざる所有りと。

⑤ 窮㆑人力絶㆑人命、有㆑所不㆑顧。
人を窮めて力(つと)めしめ人を絶ちて命じ、所有るも顧みずと。

メモ欄

問４　**【詩】**の第三句「一 騎 紅 塵 妃 子 笑」について、**【資料】Ⅰ・Ⅱ**をふまえた解釈として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［36］。

① 玄宗のため楊貴妃が手配した茘枝を早馬が砂煙を上げながら運んで来る。それを見て楊貴妃は笑う。

② 楊貴妃のため茘枝を手に入れようと早馬が砂煙のなか産地へと走りゆく。それを見て楊貴妃は笑う。

③ 楊貴妃の好物の茘枝を運ぶ早馬が宮殿の門の直前で倒れて砂煙を上げる。それを見て楊貴妃は笑う。

④ 玄宗の命令で楊貴妃の好物の茘枝を運ぶ早馬が砂煙を上げ疾走して来る。それを見て楊貴妃は笑う。

⑤ 玄宗に取り入りたい役人が茘枝を携えて砂煙のなか早馬を走らせて来る。それを見て楊貴妃は笑う。

メモ欄

問５　**【資料】Ⅲ・Ⅳ**に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［37］。

① **【資料】Ⅲ**は、玄宗一行が驪山に滞在した時期と茘枝が熟す時期との一致によって、**【詩】**の描写が事実に符合することを指摘する。**【資料】Ⅳ**は、玄宗一行が夏の華清宮で賞玩したのは楽曲「茘枝香」であったことを述べており、**【資料】Ⅲ**の見解に反論する根拠となる。

② **【資料】Ⅲ**は、玄宗一行が驪山に滞在した時期と茘枝が熟す時期との一致によって、**【詩】**の描写が事実に符合することを指摘する。**【資料】Ⅳ**は、夏の華清宮で玄宗一行に献上された茘枝が特別に「茘枝香」と名付けられたことを述べており、**【資料】Ⅲ**の見解を補足できる。

③ **【資料】Ⅲ**は、玄宗一行が驪山に滞在した時期と茘枝が熟す時期との不一致によって、**【詩】**の描写が事実に反することを指摘する。**【資料】Ⅳ**は、夏の華清宮で玄宗一行に献上された「茘枝香」が果物の名ではなく楽曲の名であることを述べており、**【資料】Ⅲ**の見解を補足できる。

④ **【資料】Ⅲ**は、玄宗一行が驪山に滞在した時期と茘枝が熟す時期との不一致によって、**【詩】**の描写が事実に反することを指摘する。**【資料】Ⅳ**は、玄宗一行が「茘枝香」という名の茘枝を賞味した場所は夏の南海郡であったことを述べており、**【資料】Ⅲ**の見解を補足できる。

メモ欄

⑤ **【資料】Ⅲ**は、玄宗一行が驪山に滞在した時期と茘枝が熟す時期との不一致によって、**【詩】**の描写が事実に反することを指摘する。**【資料】Ⅳ**は、「茘枝香」という楽曲名が夏の華清宮で玄宗一行に献上された茘枝に由来すると述べており、**【資料】Ⅲ**の見解に反論する根拠となる。

メモ欄

問６　**【資料】**をふまえた**【詩】**の鑑賞として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［38］。

①　驪山の華清宮を舞台に、開放される宮殿の門、公文書を急送するはずの早馬、楊貴妃の笑みと、謎めいた描写が連ねられたうえで、それらが常軌を逸した茘枝の輸送によるものであったことが明かされる。事実無根の逸話をあえて描き、玄宗が政治を怠り宮殿でぜいたくに過ごしていたことへの憤慨をぶちまけている。

②　驪山の遠景から華清宮の門、駆け抜ける早馬へと焦点が絞られ、視点は楊貴妃の笑みに転じる。笑みをもたらしたのは不適切な手段で運ばれる茘枝であった。事実かどうか不明な部分があるものの、玄宗と楊貴妃の逸話を巧みに用い、玄宗が為政者の道を踏み外して楊貴妃に対する情愛に溺れたことを慨嘆している。

③　驪山の山容や宮殿の門の配置を詳しく描き、早馬が上げる砂煙や楊貴妃の笑みなどの細部も見逃さない。早馬がもたらすであろう茘枝についても写実的に描写している。玄宗と楊貴妃に関する事実を巧みに詠み込んでおり、二人が華清宮でどのような生活を送っていたかについての歴史的知識を提供している。

④　美しい驪山に造営された華清宮の壮麗さを背景に、一人ほほ笑む楊貴妃の艶（あで）やかさが印象的に描かれたうえで、ほほ笑みをもたらした茘枝の希少性について語られる。事実かどうかわからないことを含むものの、玄宗が天下のすべてを手に入れて君臨していたことへの感嘆を巧みに表現している。

メモ欄

⑤ 驪山に建つ宮殿の門は後景に退き、ほほ笑む楊貴妃の眼中には一騎の早馬しかない。早馬がもたらそうとしているのは、玄宗が楊貴妃とともに賞味する茘枝であった。事実かどうかを問題とせず、玄宗と楊貴妃の仲睦まじさが際立つ逸話を用いることで、二人が永遠の愛を誓ったことを賛美している。

「大学入学共通テスト」２０２４年度本試験より（一部改変）

メモ欄

■2024年度 本試験

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第4問 (50)	1	31	5	5
	2	32	1	5
		33	4	5
		34	1	5
	3	35	4	7
	4	36	4	7
	5	37	5	8
	6	38	2	8

■現代語訳

【詩】

華清宮（かせいきゅう）〔＝唐の都長安の郊外にある、驪山（りざん）の温泉地に造営された離宮〕

長安から振り返って遠くを望むと（驪山は）綾絹（あやぎぬ）を重ねたように美しい

山頂にある（華清宮の）多数の門が次々と開く

ある騎馬が砂煙（を上げ疾走して来る。それを見て）楊貴妃（ようきひ）〔＝唐の皇帝玄宗（げんそう）の妃（きさき）〕は笑う

これがライチを届けに来た（騎馬である）のを知る人はいない

【資料】

Ⅰ『天宝遺事』に書かれている、「楊貴妃はライチを好んだ。当時、涪州（ふうしゅう）は貢ぎ物を届けるにあたって（本来は公文書を運ぶための）早馬の中継による緊急輸送を用いて、走ること七日七晩で都に到着した。（輸送にかかわった）人も馬もたくさん道中で死に、民衆はこれに苦しんだ」と。

Ⅱ『畳山詩話』に書かれている、「玄宗皇帝は遠くのものを取り寄せ、女性〔＝楊貴妃〕を喜ばせた。人の力を使い尽くして人命を犠牲にしても、気にしないところがあった」と。

Ⅲ『遯斎閑覧（とんさいかんらん）』に書かれている、「杜牧（とぼく）の華清宮の詩はなるほど広く知れわたっている。唐の時代についての歴史記録によると、玄宗皇帝（と妃の楊貴妃）は十月に驪山にお出かけをし、春になるとすぐに皇宮に帰った。したがって、これまで一度も六月〔＝夏〕には（玄宗皇帝の妃である楊貴妃も）驪山にいない。しかしライチは夏の暑い盛りの時期になってようやく熟す」と。

〈玄宗皇帝と楊貴妃が華清宮にいる時期にはライチは熟していないはずなので、ライチが華清宮に届けられたという杜牧の詩とは時期が不一致となる。〉

Ⅳ　『甘沢謡』に書かれていることには、「天宝十四年六月一日は、楊貴妃の誕生日で、皇帝の乗り物（に乗った皇帝）が驪山に行幸した。唐の宮廷の少年歌舞音楽隊に命令して音楽を長生殿〔＝華清宮の建物の一つ〕で演奏させ、新曲を（誕生日祝いとして）進呈させたが、まだ（その楽曲には）名前がなかった。ちょうどその時南海郡がライチを献上し、そのために（新曲に）『茘枝香（れいしこう）』と名付けた」と。

〈六月にライチが届いたということが述べられている。〉